

協同組合の心を求めて

「共済と保険」誌巻頭言選集

を発刊しました



A 5 版 全326ページ
1,000円 (税・送料別)

序文

第1章 共済・保険についての論考

＜日本共済協会の歴史＞ ＜自然災害と共済＞
＜共済と法規制（保険業法 保険法 消費者保護）＞
＜環境変化と共済についての論考＞

第2章 協同組合・助け合いについての論考

第3章 時事問題等についての論考

＜介護・高齢者福祉＞ ＜TPP問題＞
＜貧困・格差・グローバル化・市場原理主義について＞
＜原発事故・再生可能エネルギーと協同組合＞
＜その他の時事問題＞

＜監修 関 英昭 青山学院大学名誉教授＞

このたび、日本共済協会では、『共済と保険』誌1992年4月号～2016年3月号の「巻頭言」から142編を選び、1冊にまとめた『協同組合の心を求めて —「共済と保険」誌巻頭言選集—』を発刊しました。

この間、国内では金融自由化政策、保険業法の改正、保険法制定、大規模自然災害、国際的には協同組合原則の改定、国際協同組合年、TPP交渉など、共済事業をめぐる環境は大きく変わってきました。共済や協同組合の存在意義・役割を私たち自身が再確認するとともに、広く社会に発信しなければならない時代を迎えています。

『共済と保険』誌の巻頭言には、折々の出来事に対して、協同組合・共済事業がそれをどう捉え、対応していけばいいのかを、様々な立場の識者がわかりやすく論じた先進的な指摘や助言が掲載されてきました。今日でも、今後の展開への橋渡しとして読み返す価値があるものが数多くありますので、1冊にまとめて多くの方にご紹介することとしたものです。

本書には、次のような特徴があります。

- ① 1編が短く、課題や主張が具体的かつコンパクトにまとめられている。
- ② 第一線の研究者・実務家による本格的・客観的な論考が読める。
- ③ この四半世紀の社会一般・協同組合・共済事業をめぐる内外の動きが理解できる。
- ④ 協同組合のあり方と共済事業のあり方を並行して考察できる。
- ⑤ 協同組合と株式会社、共済と保険の異同を理解できる。

これに加え、本書の刊行委員会で委員長を務められた関 英昭先生（青山学院大学名誉教授）の「序文」では、資本主義をめぐる最近の議論を踏まえた協同組合の本質論が展開されており、必読です。

全編を通じて、各執筆者の協同組合に対する愛情や期待が読み取れ、「協同組合は人が中心の組織である」というメッセージが読者に伝わる内容であることから、『協同組合の心を求めて』という書名となりました。

本書には、様々なテーマ・執筆者の巻頭言が掲載されていますので、読者の所属団体・役職・関心に応じて多様な示唆を得ることができます。関心のあるテーマをピックアップして読む方法や、良いと思った執筆者の書いたものを読む方法、巻末の年表をヒントに時代の変化を読み解く方法など、いろいろなアプローチが可能です。

ぜひ多くの役職員の皆さんに手に取っていただき、協同組合・共済事業について知り、学び、考える手がかりとして活用していただければ幸いです。

掲載タイトル抜粋

◆ 共済・保険について

- 東日本大震災から1年 ○保険と共済の境界を探る～大学生協共済の事例から
- 賀川豊彦～「元祖・社会起業家」として ○共済は「損」することに意味がある
- わが国の地震保険システムを考える ○共済の本質・源流と現代的革新方向
- 共済約款は今のままでよいのか～「契約書」としての約款のあり方を考える
- 消費者が保険・共済に期待しているものは ○募集ルールの改定
- 自賠責保険と被害者保護の行方

◆ 協同組合について

- 協同組合が真に「協同」の受け皿になるために ○地域再生元年
- 「三位一体の原則」を再考してみよう ○「協同組合」の社会的認知度
- 「国際協同組合年」から「協同組合の10年」へ～残された課題は何か
- 誤解から理解へー求められる「食農連携ビジョン」ー ○協同組合と中小企業
- 多様性の中にある協同組合らしさ

◆ 時事問題

- 協同優先か効率優先か ○格差社会に挑む協同組合
- くらしの相談から考える生協組合員の「貧困」と生協
- 原発事故対策の総括と真の放射能汚染対策の実現を
- 異次元の政治と市民の眼 ○協同組合こそ再生可能エネルギーの担い手に
- TPP交渉と日米の価値観の相違 ○消費者行政について考える

購入希望、お問い合わせは、編集部（kyosai-to-hoken@jcia.or.jp）まで。

* 1冊の場合の送料は230円です。